

漢文句法2 可能【問題】

漢字	読み			訳
能	能ク	一	—できる	
得	一ヲ得			
可	一ベシ			
可以	以テ	もつ		

【練習】□に送り仮名を入れ、傍線部を書き下し、口語訳せよ。 (■は置き字)

1 客^{かくニ}有^リ能[□]為^{なす}鶏^{けい}鳴^{めい}者^ラ。 鶏鳴 鶏の鳴き真似

書き下し文

口語訳

2 懿^い笑^{ヒテ}曰^{ハク}、「吾^{われ}能[□]料^{はかる}生^ヲ、不^ト能^{あたハ}料^ル死^ヲ。」 吾私

(書)

(訳)

3 項王^{いハク}曰^{ナリ}、「壯士^{ナリ}。能[□]復^{また}飲^ム乎^{カト}。」 飲酒を飲む 乎…か。疑問を表す

(書)

(訳)

4 懿^い告^{ゲテ}人^ニ曰^{ハク}、「食^{ナク}少^{こと}事^{わづら}煩^{ハシ}。其^{それ}能[□]久^{シカラシ}乎^{ヤト}。」 久 長生きである 乎…か、いや…ない。反語を表す

(書)

(訳)

- 1 孟嘗君が連れていた食客に、
——。〈十八史略・鶏鳴狗盜〉
- 2 司馬懿が笑って言うには、「
—、死んだ人間のすることは推
測できない。」と。〈十八史略・
死諸葛走生仲達〉
- 3 項王が言うには、「お前は勇壮
な男だ。——。」と。〈史記・鴻
門之会〉
- 4 司馬懿が人に告げて言うには、
「諸葛亮は、食事の量は少ない
が仕事が多く忙しいそうだ。そ
んなことでは——。」と。〈十八
史略・死諸葛走生仲達〉

5 備^び三^み往^ゆ、乃^{すなはち}得^{タリ}見^ル亮^{りやう}。見^見会^う亮^{人名}。諸^{しよ}葛^{かつり}亮^{よう}

(書)

6 老人^{もつテ}以^ヲ足^{ケテ}受^{コレヲ}之^{いハク}、曰^{じゆし}、「孺^{□ト}子^フ可^レ教^ト。」

(書)

7 曾^{そうし}子^{ハク}曰^{ルニ}、「…祭^{これヲ}之^{もつテス}以^ヲ礼^{□ト}。可^レ謂^{いフ}孝^ト矣^ト。」

(書)

(訳)

8 「前^{ニリ}有^{おほイナル}大^一梅^{おほク}林^み。饒^{かむさんナリ}子^{□ト}甘[□]酸^{とク}。可^ニ以^レ解^{かわ}渴^{きヲ}。」

(書)

(訳)

9 子^し曰^{いハク}、「温^{あた}レ故^{ふる}而^{レバ}知^シ新^{キヲ}、可^ニ以^レ為^ト師^{ナル}矣^ト。」

(書)

10 滄^{さう}浪^{らう}之^の水^ス清^す兮^マ、可[□]以[□]濯^{あらフ}吾^わ纓^{えい}。滄^{さう}浪^{らう}之^の水^ス

濁^{ラバ}兮^マ、可[□]以[□]濯^フ吾^ガ足^ヲ。

滄浪 川の名 纓冠の飾りひも

(書)

(訳)

11 走^ル者^{ハク}可[□]以[□]為^な網^{あみ}、游^{およ}者^{ハク}可[□]以[□]為^な綸^{いと}、
為^ニ網^ニ 網^ニで捕^とらえる 為^ニ綸^ニ 釣り糸で釣^とる

(書)

(訳)

解 いやす

5 劉備は三度も訪問して、ようやく――。〈十八史略・水魚之交〉

6 老人は足でこれを受け取って言うことには、「この小僧になら、私の学んだことを――。〈十八史略・孺子可教〉

7 曾子が言うには、「…親の死後、慰霊に際して礼をつくす――。と。〈孟子〉

8 前方に大きな梅林が有る。実がたぐさん成っていて甘酸っぱい。それを食べれば――。と。〈世説新語・望梅止渴〉

9 孔子先生が言うには、「昔のこととをよく学び新しい知恵を身につけるならば、――。と。〈論語〉

10 滄浪の水が澄んでいるならば、――。濁っているならば、――。〈楚辞・漁父辞〉

11 走るものは――、泳ぐものは――、〈十八史略〉

13 惟^{ただ}昨日^の之言^{ノミ}、可[□]以[□]救^フ禍^{わざわひヲ}。

(書)

(訳)

13 ただ昨日私が言った方法でのみ、――〈十八史略〉